

商品市況展望

平成 25 年 11 月 3 日記

10 月 23 日付の日経新聞の記事によると、22 日の東京商品取引所の全商品の売買高は 5 万 785 枚。商品先物の売買は低調で、東商取は 1 年 2 カ月ぶりの低水準となったそうである。この日に限らず、10 月に入ってから東京商品取引所と大阪堂島商品取引所の出来高総計(日経掲載分)が 10 万枚を超えた日は 1 日だけ。悲惨な状態だ。

当方は商品先物取引業界で、すでに 30 年も働いているわけだが、どのくらいこの出来高が減っているかといえば、以下のサイトにアクセスしてみれば良くわかる。

○日本商品先物振興協会のホームページより

<http://www.jcfia.gr.jp/study/statistics/statistics.html#a>

出来高は平成 15 年の 1 億 5400 万枚が、昨年 24 年は 2700 万枚へと 5 分の 1 以下になっているのだ。預かり証拠金もピーク時の 5000 億円が、今や 1300 億円台までやはり 5 分の 1 だ。

ただし委託者数だけは、ピーク時の 12 万人弱→8 万人弱までの 3 分の 1 の減少にとどまっており、出来高や預かり証拠金の比率から言えば 2 万人台まで減っていてもおかしくないが、そうはなっていない。売買をあまりしなくなった、大きなお金は預けなくなったという事だが、完全に商品先物取引に興味がなくなったというわけでもなさそうなのが唯一の救いだ。

そりゃそうだ。30 年前にはレバレッジの効いた投資は「商品先物市場」しかなかったものが、今は FX 取引や日経 225 先物など多様化しているわけだが、金や原油、穀物などの市場だってその役目を全く終えてしまったわけではない。場合によっては(相場材料の出現によっては)商品市場を使おうと目を光らせている人は居るわけだから。

例えば金相場ならば、もしも米国が金融緩和を完全に終了させ、そのために株式市場が急落したならば、逆に金が急騰するかも…などと考える人は居るわけで、商品先物市場がなくなるわけではない。原油だって万が一中東戦争が起きればとか、穀物だって世界的に異常気象が起きたらとか、何らかの異常事態が起きれば投機しようと思っている人は多いはずだ。

そういう時のために、備えあれば憂い無しで研究は怠ってはいけないし、事が起きてからおっとり刀で駆けつけて、さてどうやって買おうか(売ろうか)というのではうまく行くはずもあるまい。

相場格言には、「休むも相場」という言葉がある。だが休むは止めるではないし、全く関心を持たずに見なくなっては、いざ鎌倉という時にどうする? そういう気持ちでレポートを書いている事が最近は多いな…(苦笑)

〔貴金属〕

○東京金日足
…削除済み…

今週の金の値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
10月28日	¥4,253	63	¥4,241	46
	12月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
10月29日	¥4,247	7	¥4,248	
10月30日	¥4,249	2	¥4,253	5
10月31日	¥4,223	-26	¥4,226	-27
11月1日	¥4,179	-44	¥4,184	-42

金相場は、先週号においては『戻り売り狙いに変化無し。短期的には小さな買いトレンドの発生となっているものの、そんなに長続きするものではないだろうというのが、当方の見方である』とコメントした。

今週の相場展開は、4,298円(10/31)まで上昇の後、100円強の反落となって終了。一目均衡表の雲の上には抜けられずに、週末は反落となった。

チャートでは、4,532円(9/4)→3,975円(10/16)までの557円下落した相場が、3,975円→4,298円まで323円戻し(3分の2戻り)、さて戻りが終わったかな?というタイミングで3連休入りしたという事だ。

週末の夜間取引では4,152円まで押しており、高値からは146円の下げである。反発した分の半分近くを消したわけだが、5日まではまだ何かあるのか判らんというところ。…中略…

さて先週号のコメントで、「なぜ金が反発を始めているのかと言えば、これはドル安が主因であろう。ドル/円相場は現在97~98円程度でもみ合いとなっているわけだが、ドルは対ユーロでは下落が続いている。そのためドルベースの金は、1250ドル台→1350ドル台へと100ドルほど反騰中であり、それが国内金価格も押し上げているわけだ。つまり金の動向は、ユーロ/ドル相場次第とも言える」と書いた。

巻末にユーロ/ドル相場のチャートを載せているが、31日にドルは対ユーロで大きく買われており、一気にドル高となった。これが今回の下落の主因だろう。

また先週号ではユーロに関してのコメントや引用を多く出したが、「このユーロ高は、欧州経済が強いというファンダメンタルズで発生しているものではなく、米金融緩和縮小の先送りで余った資金が流れ込んでいるだけの話であり、欧州経済は相変わらず弱い。米金融バブルの裏に咲いたあだ花であると言える」と結論付けた。まだ米国金融バブルは続くのだから、このままドル高/ユーロ安が進むのかどうかは判断の迷うところではあるが、少なくとも今はゴールドに大量の資金流入が続くという事は無いだろうと考えている。

…中略…

また今週は、英商品取引大手サクデン・フィナンシャルが、今年の金価格を年平均1420ドルとしたうえで、来年2014年については、世界経済の回復が加速し、金や高利回り資産からの資

金シフトが予想されることから、『下落バイアスは維持される』と分析し、価格レンジを 1100～1500 ドル、年平均価格を 1280 ドルと予想した。

つまり彼らの姿勢は「金よりも株を買わせたい」というのが一致したところであると見ており、実際に NY ダウは史上最高値である。

だからもしも金が復権するとすれば、今の世界的な金融システムに不安が台頭した場合であり、ドルが本当の暴落を開始した場合であろう。だがそういう危機を煽る本は数多くあるが、そうそう簡単に起きないだろうとも当方は考えている。

だからこそ、基本的に金は戻り売りであり、5000 円なんぞは夢のまた夢、という相場観で臨んでいるわけだ。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 10 月	¥4,404	10 月 29 日	¥5,077	2 月 7 日	¥3,761	6 月 28 日	¥4,253
2013 年 12 月	¥4,519	12 月 25 日	¥5,081	2 月 7 日	¥3,745	6 月 28 日	¥4,179
2014 年 2 月	¥4,759	2 月 26 日	¥4,979	3 月 21 日	¥3,751	6 月 28 日	¥4,183
2014 年 4 月	¥4,585	4 月 25 日	¥4,760	5 月 10 日	¥3,749	6 月 28 日	¥4,184
2014 年 6 月	¥4,031	6 月 26 日	¥4,531	9 月 4 日	¥3,750	6 月 28 日	¥4,179
2014 年 8 月	¥4,424	8 月 28 日	¥4,532	9 月 4 日	¥3,975	10 月 16 日	¥4,182
2014 年 10 月	¥4,254	10 月 29 日	¥4,298	10 月 31 日	¥4,173	11 月 1 日	¥4,184

○NY 金日足

…削除済み…

11/1 の NY 市場では、前日比 10.5 ドル安の 1313.2 ドルでの終了。ドル高加速が下落の要因である。

チャートでは 1251 ドル (10/15) →1361.8 ドル (10/28) まで 110.8 ドルの上昇を演じてきたものが、一目均衡表の雲の上に抜けられずに反落。

再度この 1361.8 ドルを抜けるようならトレンド転換であるが、年末に向けて一段安する可能性の方が高いだろうと当方は見ている。

なお CFTC の建玉報告は、10/22 現在まで出ている。…中略…

また 11/1 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、4,298 円で戻り天井を打った可能性は高いだろう。万が一これを抜けると 4,400 円台も有り得るが、それはストップロスで対処しての売り方針がベターであるとの見方である。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
10月28日	¥4,578	43	¥4,595	54
	12月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
10月29日	¥4,633	41	¥4,646	
10月30日	¥4,644	11	¥4,659	13
10月31日	¥4,635	-9	¥4,653	-6
11月1日	¥4,606	-29	¥4,627	-26

プラチナ相場は、先週号においては『半値戻しが出た事で、上値警戒感が高まってくるだろう。ぼちぼち売り場が接近していると見て、売りのタイミングを図るのが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、4,714円(10/31)まで上昇の後、週末に掛けては金とともに値を消した。しかし週末のNY市場は3.5ドル高と金の10.5ドル安とは相反した動きであり、夜間取引も4,650円と確り引けている。

チャートでは4,302円(10/4)→4,714円(10/31)までの412円幅の上げで、戻りいっぱいとなっても不思議ではないと考えているものの、南アのスト懸念が下値を支えている模様。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,578
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,122	6月27日	¥4,606
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,125	6月27日	¥4,594
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	¥4,109	6月27日	¥4,604
2014年6月	¥4,284	6月26日	¥4,948	9月4日	¥4,125	6月27日	¥4,617
2014年8月	¥4,810	8月28日	¥4,956	9月4日	¥4,302	10月4日	¥4,623
2014年10月	¥4,648	10月29日	¥4,714	10月31日	¥4,610	11月1日	¥4,627

○プラチナ-金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,627円(プラチナ) - 4,184円(金) = 443円。

…中略…

結論として当方の相場観は、4,714円で戻りいっぱいとなった可能性もあるが、4,600円を維持して推移するようならば逆に一段高に舞い上がる可能性も否定出来ない。来週の動きに注目だろう。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	1月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
10月28日	¥23,760	40	¥24,900	0
10月29日	¥23,700	-60	¥24,700	-200
10月30日	¥23,860	160	¥24,780	80
10月31日	¥23,980	120	¥24,760	-20
11月1日	¥24,140	160	¥24,540	-120

まずはコーンから…

先週号においては『来年の天候相場期まで休むも相場に徹するのがよいだろう。ただしデータは、良く把握しておかねばならない。休むとやめるは違うゆえ』とコメントした。

今週の相場展開は、25,000円を割り込んで軟調な展開。

チャートでは23,990円(8/13)と24,190円(10/3)でのW底形成であるが、実際に買いトレンドに転換するためには26,600円を超えて行く必要がある。その可能性はほぼ皆無だろう。

というのも、米農務省が発表した10月27日現在の全米18州平均のコーン収穫進展率はまだ59%で前年の91%、5年平均の62%を下回っている。しかし、大豆の収穫作業が終盤戦に入り、米国の農家はコーンの収穫作業に専念できるため、シカゴコーン市場はこれまで以上にハーベストプレッシャーが掛かるわけだ。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,600	6月3日	¥23,350	10月3日	¥24,140
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥28,750	6月3日	¥24,030	8月12日	¥24,290
2014年5月	¥26,550	4月17日	¥28,970	6月3日	¥23,500	10月3日	¥23,650
2014年7月	¥26,600	6月17日	¥28,410	6月21日	¥23,990	8月13日	¥24,090
2014年9月	¥25,190	8月16日	¥26,600	8月27日	¥24,190	10月3日	¥24,420
2014年11月	¥24,790	10月16日	¥25,150	10月23日	¥24,630	11月1日	¥24,640

なおCFTC発表のファンドの建玉報告では、…中略…

結論として当方の相場観は、出来高から見てやる相場ではないが、どうしてもやるなら売りからだろう。まだ底ではないと見ている。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	12月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
10月28日	¥56,810	0	¥53,020	-90
10月29日	¥56,800	-10	¥52,660	-360
10月30日	¥56,800	0	¥53,360	700
10月31日	¥56,800	0	¥53,240	-120
11月1日	¥56,800	0	¥53,090	-210

続いて一般大豆です…

先週号においては『当面は手出し無用の相場である。来年の天候相場期まで、待つは仁の相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、相変わらず 53,000 円台でのみみ合い。

週末の出来高を見ると、トータル僅か 180 枚。2月限に至っては、終日ゼロである。売り板、買い板の開きは平気で 500~600 円以上あるわけで、つまりは買うなら 500 円以上上で、売るなら 500 円以上下で入るわけであり、そんな相場出来るはずもない。

…中略…

以上、解説終わり！って言うんじゃ、あまりにも身も蓋もないので一つだけ。インフォーマ社は大豆の生産高を 32.98 億 Bu と予測。前回予想の 31.76 億 Bu から引上げであり、米農務省の前回報告の 31.49 億 Bu からも大きく引き上げた。シカゴも上値は重いだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥59,950	9月13日	¥48,450	1月9日	¥56,800
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥57,300	9月13日	¥48,960	8月8日	¥54,800
2014年4月	¥50,910	4月17日	¥60,000	9月4日	¥49,850	5月2日	¥55,430
2014年6月	¥51,760	6月17日	¥56,340	7月10日	¥49,130	8月8日	¥53,830
2014年8月	¥52,600	8月16日	¥55,270	9月4日	¥51,480	10月3日	¥53,090
2014年10月	¥53,600	10月16日	¥53,600	10月16日	¥51,900	10月16日	¥53,030

なお CFTC 発表のファンドの建玉報告では、…中略…

結論として当方の相場観は、出来高回復まで東京市場では手出し無用である。お前が出来高増やせて？ そりゃ無理… (笑)

[ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

今週のゴムの値動き

	11月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
10月28日	246.4	1.6	260.0	
10月29日	247.5	1.1	261.2	1.2
10月30日	250.2	2.7	264.3	3.1
10月31日	248.1	-2.1	261.6	-2.7
11月1日	245.9	-1.2	259.8	-1.8

先週号においては『戻り売り継続の相場であろう。今のゴム相場のファンダメンタルズには、買い上げられそうな材料は皆無ゆえに』とコメントした。

今週の相場展開は、260円を挟んだもみ合いの展開。

256.5円(10/25)まで下落の後に小休止となっている相場である。直近の安値は253.8円(10/4)であるが、あっさりそれを割り込まなかった事で、ちょっと横ばいの動きとなるのかもしれない。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年11月	267.7	5月28日	279.0	9月9日	223.9	6月25日	246.9
2013年12月	231.0	6月25日	282.5	9月9日	225.5	6月25日	249.1
2014年1月	257.0	7月26日	287.1	9月9日	238.7	7月31日	252.0
2014年2月	278.8	8月27日	290.3	9月9日	251.2	10月4日	254.7
2014年3月	277.9	9月25日	278.5	9月25日	253.8	10月4日	257.1
2014年4月	261.1	10月28日	265.4	10月31日	258.0	11月1日	259.8

当先のサヤは、11月限246.9円～4月限259.8円と**12.9円**の逆ザヤ。順ザヤ幅は元に戻った。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、10/20現在で928トン増の5,314トン。5,000トン台を回復した。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、1…中略…

結論として当方の相場観は、戻り売り相場に変化はないと思うものの、目先は横ばいになる可能性が大であろう。突っ込みは買い戻して、利益確定をしておくのも手であろう。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週号においては『65,530 円は戻り天井であろう。63,000 円台まで戻りがあれば、そこはまた売り場になるものとする』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は 95.95 ドル (10/24) まで下落の後に小反発したが、月末に掛けてまた下落。週末 11/1 は、前日比 1.77 ドル安の急落で 94.61 ドルとまた安値更新。安値は 94.36 ドルまでであった。

チャートでは、102 ドル以上は完全に天井圏という格好となっている。夏場のシリア危機で 112 ドル台まで上がったのだから、それが無くなって 100 ドルを割り込んだ相場は完全に売り転換しているという事だ。

もちろんまた何らかの材料が出れば上昇に転じるのだろうが、一目見て 102~112 ドルの 10 ドル幅の天井圏から崩れた相場は、今度は倍返し of 92 ドル目標となるのは自然な事だろう。ドラマ「半澤直樹」で流行った倍返しだが、相場の世界ではずっと前から良くある事だ。

なお週末のロンドンプレントは…中略…

また CFTC のファンドの建玉報告は、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	10 月限(当限)	前日比	3 月限(先限)	前日比
10 月 28 日	¥65,550	0	¥62,580	440
10 月 29 日	¥65,640	90	¥63,320	740
10 月 30 日	¥65,720	80	¥63,790	470
10 月 31 日	¥65,680	-40	¥64,120	330
	11 月限(当限)	前日比	4 月限(先限)	前日比
11 月 1 日	¥65,910	-110	¥63,710	

東京原油は、61,690 円 (10/28) →64,660 円 (10/31) まで 2,970 円幅の反騰。しかし週末は反落した。またその後の夜間取引では、62,560 円まで 1,000 円以上の急落となっている。

先週号で「63,000 円台まで戻りがあれば、そこはまた売り場になる」としたが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。…中略…

結論として当方の相場観は、戻り売りの相場に変化はないだろう。だが NY 原油も大暴落まではまだあまり考えづらく、また東京原油も逆ザヤであるため、突っ込みは利益確定の利食いを優先すべきだろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	12月限(当限)	前日比	5月限(先限)	前日比
10月28日	¥74,470	430	¥75,110	
10月29日	¥75,050	580	¥75,670	560
10月30日	¥75,130	80	¥75,810	140
10月31日	¥75,450	320	¥76,050	240
11月1日	¥74,910	-540	¥75,570	-480

続いてガソリンです…

先週号においては『原油価格の下落とスポット価格の急落で大きく下げたが、国内在庫も急減している。先物に5月限が発会することもあり、あまり調子に乗って安値を叩くのは危険だろう。大勢は戻り売りだろうが、きちんと戻ったところのみ売るのがベターだと見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末に記録した安値 74,340 円 (10/25) →76,410 円 (10/31) まで 2,070 円の反発の後、週末は下落して引けた。

またその後の夜間取引では 74,700 円まで下落であり、ほぼ戻りを消す展開となっている。

ガソリン相場の習性としては、2,000 円、4,000 円、6,000 円、8,000 円という 2,000 円を単位とするサイクルで一相場となるケースが多い。小さな戻りで 2,000 円、大きなトレンドだと 12,000 円程度まで動きことが多い。

そんな中で今回は 2,000 円戻りを入れたわけで、結果的にそこが売り場となったわけだ。次は戻りから 4,000 円下げたら利食いだろう。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	¥71,760	5月27日	¥77,880	9月6日	¥69,450	6月14日	¥74,910
2014年1月	¥70,660	6月26日	¥77,500	8月28日	¥69,520	6月27日	¥74,060
2014年2月	¥75,050	7月26日	¥77,660	8月28日	¥71,020	8月9日	¥74,100
2014年3月	¥76,610	8月26日	¥78,870	8月28日	¥73,210	10月8日	¥75,130
2014年4月	¥76,190	9月26日	¥78,270	10月17日	¥73,350	10月8日	¥75,350
2014年5月	¥75,100	10月28日	¥76,410	10月31日	¥74,980	10月28日	¥75,570

11/1 現在の業者間転売価格は、…中略…

10/26 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、戻り売りの相場展開だと見ているものの、72,000 円台があれば利食いとしたい。安値を叩いてゆくほどの相場ではないと見ているゆえに。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	12月限(当限)	前日比	5月限(先限)	前日比
10月28日	¥79,320	450	¥74,440	
10月29日	¥79,940	620	¥75,220	780
10月30日	¥80,470	530	¥75,770	550
10月31日	¥80,810	340	¥76,190	420
11月1日	¥80,500	-310	¥75,960	-230

最後に灯油です…

先週号においては『需要期限月の突っ込み買い、先物の戻り売りの大方針に変化は無し。それが理にかなっている戦略であると信じているゆえ』とコメントした。

今週の相場展開は、74,250円(10/28)→76,450円(10/31)まで2,200円の戻りを入れたが、週末は反落。その後の夜間取引では75,000円まで下落しており、戻り売りの相場を鮮明にしている。

一代の推移を見ると、12月限～2月限までは8万円台を維持。つまり需要期限月はこのチャートで見ての夏場の高値圏から下げてはいないわけだ。

一方で3月限以降は、今週生まれた5月限も含め、逆ザヤでの推移となっている。これも不需求相場なのだから当たり前だ。

…中略…

一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	¥74,610	5月27日	¥81,410	10月17日	¥71,580	6月14日	¥80,500
2014年1月	¥73,900	6月26日	¥81,450	10月17日	¥72,650	6月27日	¥80,520
2014年2月	¥78,000	7月26日	¥81,270	9月9日	¥74,130	8月9日	¥80,180
2014年3月	¥79,130	8月26日	¥81,010	9月9日	¥75,770	10月8日	¥78,500
2014年4月	¥75,440	9月26日	¥78,320	10月17日	¥73,900	10月8日	¥76,480
2014年5月	¥74,290	10月28日	¥76,450	10月31日	¥74,250	10月28日	¥75,960

11/1 現在の業者間転売価格は、…中略…

10/26 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、需要期限月の突っ込み買い、先物の戻り売り方針に変化無し。10月は暖かかったが、11月は寒くなるという予報もあり、実需の動きに注目したい。

[為替・株式]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

当方は「三角持ち合いを上を抜ける＝円安になるという相場観」を持ち続けているのだが、まだ持ち合いを放れない。というか、どんどんレンジが狭くなってきている。…中略…

なお来週の主な予定は、

- 4日（月）日本は文化の日で休場（振替休日）、米製造業新規受注（9月）、
ボストン連銀総裁・パウエル FRB 理事、講演
- 5日（火）黒田日銀総裁、講演、**米 ISM 非製造業景況指数（10月）、ドラギ ECB 総裁、講演、
欧州委員会、経済見通し発表、**
NY 連銀総裁・SF 連銀総裁・リッチモンド連銀総裁、講演
- 6日（水）**日銀議事録、米景気先行指数（9月）、**クリーブランド連銀総裁、講演
- 7日（木）**BOE 政策金利、ECB 政策金利・ドラギ ECB 総裁、記者会見、
米 GDP 速報（第3四半期）、米新規失業保険申請件数（1日までの週）**
- 8日（金）**米雇用統計（10月）、米個人所得支出・PCE デフレーター（9月）、
ミシガン大学消費者信頼感・速報（11月）、
SF 連銀総裁・アトランタ連銀総裁・バーナンキ FRB 議長、講演**
などとなっている。

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

先週号で「ユーロが天井を打てば、金も下がるのだろう」としたが、その通りになった。

…中略…

○NY ダウ日足

…削除済み…

NY ダウは 15,000 ドル後半と 14,000 ドル後半の 1,000 ドル幅程度でもみ合いを続けているわけだが、10/30 にはかぶせの陰線が出て、また天井感を強めた。

…中略…

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

（当たり前ですが念のため）

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com